

論壇

辛うじて金融危機を回避

1月に緊急事態宣言が発令されてから、消費の動きなどが再び悪化している。それ以前は経済が少し回復の方向に向かっていただけに残念な展開である。この原稿を書いている足元では新規感染者の数も少しずつ減ってきているようだが、この先の景気の動向が気になる人も多いだろう。

昨年の6月、国際機関の国際通貨基金（IMF）が出した経済予測は世界に大きな衝撃を与えた。2020年の世界の経済成長率は1930年代の世界大恐慌以来の落ち込みになるという予測が出た

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

のだ。世界大恐慌と言え、多くの国で10年以上も不況が続いた20世紀最悪の経済不況であった。

コロナ危機による経済不況もそのような長期化するのだろうか。専門家の間でもさまざまな議論が交わされた。そこで大きなポイントとなるのが、金融危機が起きるのかどうかということだ。大恐慌

経済回復への期待

は金融市場が大混乱することでは機が長引いた。ちなみに、1997年末の山一証券の倒産に端を発した日本の金融危機、そして2008年のリーマン・ショックなどで、日本のGDPは1997年の水準に回復するまでに20年かかっている。

幸い、金融危機は起きなかった。昨年4月ごろは株価も暴落して危

なかつたが、各国の政府や中央銀行の必死の対応で、何とか持ちこたえた。それどころか、その後、株価は実体経済の低調に反して高騰を続けている。株価が少し高すぎることに気にはなるが、とりえず金融危機にはなっていない。

この1月に出たIMFの予想を見ると、2020年は世界全体でマイナス3.5%という厳しい数字だ。昨年6月の予想がマイナス4.9%であったのであの時の予想ほどひどくはならなかったが、それでも昨年の世界経済の状態は惨憺たるものだった。

ワクチン有効投入で道筋

ただ、注目すべきはそこではない。今年の1月段階でのIMFによる世界の経済成長率予想は、2021年が5.5%、そして22年が4.2%であるという。20年の落ち込みを超えるような回復であり、それが来年にまで続くと思

っている。もちろんあくまでも予想にすぎないが、この数字は希望を与えてくれるものである。こうした楽観的な見通しになるのは、ワクチンの効果などが夏以降に広がってきて経済活動が少しずつ元に戻ってくることで、そして主要国が過去最大の景気対策を続けることが予想されるからである。主要国の株価が高値を維持しているのも、こうした早期の回復

への期待が影響を与えているのかもしれない。

このような早期回復の予想が現実化するためには、まず何よりも感染の広がりを徹底的に抑え込まなければいけない。感染拡大防止行動を徹底させそこでワクチンを有効に投入できれば、夏以降の景気回復への道筋も見えてくる。

ただ、一つ気になることがある。このIMFの予想によると、日本の回復のスピードは遅い。日本の経済成長率の予想は2020年がマイナス5.1%、21年が3.1%、そして22年が2.4%である。日本でも景気のリバウンドは期待できるが、リカバリーとまでいかないという予想だ。そうならないように、政府による有効な政策の実行を期待したい。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。